

# ビワ生育情報

千葉県  
平成26年11月号

## 平成26年10月の気象

平成26年10月の半旬別気象を表1に示した。平均気温は、第3及び第4半旬を除く4半旬で平年並みか上回った。月平均気温は18.1℃で平年より0.1℃高く、前年より0.9℃低かった。

降水量は、第2及び第4半旬を除く4半旬で平年を上回った。月合計は305mmで平年より44mm(17%)多く、前年より150mm(33%)少なかった。

日照時間は、第2、第4及び第6半旬で平年を上回った。月合計は141時間で平年より4時間(3%)、前年より9時間(8%)多かった。

表1 平成26年10月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	20.6	20.5	21.0	104	43	27	10	20	10
2	19.9	18.9	23.4	51	72	2	22	20	36
3	18.0	18.8	20.5	42	35	131	18	21	34
4	17.1	17.7	16.9	5	43	215	41	22	15
5	16.6	16.6	17.7	57	29	20	16	24	3
6	17.0	15.9	15.1	47	39	62	35	29	33
平均/計	18.1	18.0	19.0	305	261	455	141	137	130

## 12月の作業 (花房の発育は次ページ)

気温が低下すると、ビワの枝葉や根の伸長はほとんど停止するが、開花は続き、幼果は少しずつ肥大する。12月は寒害防止の準備を行い、来春に向けて、苗木の植え付け準備にとりかかる。

### 防寒の準備

開花期は平年よりやや早いと予想されるため、寒害には充分気を付ける。毎年1～2月に寒波が襲来しているため、年内から防寒の準備を始める。

幼木の防寒法としては、こも掛けあるいは枝を結束する方法があるので、あらかじめ資材を用意しておく。成木園では園内を加温する方法があるので、火点設置場所の整備、ヒーター及び燃料の手配をしておく。また、防霜ファンの設置によって、放射冷却現象を緩和させることも有効である。

### 植え付け(定植)と植え穴の準備

ビワの根の伸長は3月上旬から始まるので、苗木の植え付けの適期は2月中下旬頃になる。植え穴の準備は年内に済ませておく。改植の場合には、白紋羽病の発病跡地は極力避ける。やむを得ず、発病跡地へ植え付ける場合は、農作物病害虫雑草防除指針に従って防除してから行う。また、前作の根が残ると白紋羽病の発生源になるので、根を取り除くことも重要である。

新植の場合、苗の植え付け距離は3～3.5mとし、10a当たり80～110本を植え付ける。樹冠の広がりに合わせて間伐を行い、最終的な栽植距離は6～7mにして、10a当たり20～27本の永久樹を残すようにする。

## 台風による被害を受けた樹の管理

11月1日現在、5個の台風が日本列島本土に上陸又は接近した。倒伏した樹は起こし、損傷の程度に応じて枝を切り詰める。起こせない場合は、管理しやすいように枝を整理する。根が地面に露出しているところは、覆土をして根の回復を図る。バーク堆肥を一緒に混ぜると、細根の再生が促され、樹の回復が早い。白紋羽病の恐れのあるところは農作物病虫害雑草防除指針に従って防除する。

## 樹及び花房の発育

樹の発育はおおむね順調であるが、10月6日の台風18号の通過後には、主に幼木で潮風害がみられている。落葉が進む場合は、着果（花）数を減らすことで、樹体への負担を減らすようにする。

着花房率を表2に示した。本年の着花房率を品種別にみると、「楠」が91.8%、「大房」が87.4%、「田中」が79.2%で、3品種共に前年より低い、平年より高い。花房の着生は、副梢にはやや少ないが、中心枝には多い。花房の大きさは全般的に平年並みで、1つの花房に着生する花数も平年並みである。本年のように、蕾の出現及び発育が揃っていると、開花も揃いやすいため、幼果が寒害を受けやすくなる。そのため、摘房は様々な発育段階の花房が混在するように行い、摘蕾は花房が3～5cmの早い時期に行うことによって、開花期の延長を図る。

本年は、出蕾期は平年よりやや遅れたが、揃いが良く、その後の花房の発育はやや早い。11月1日時点で3品種共に開花が始まっており、開花の進みは平年よりやや早いと思われ、今後の天候次第では更に早く進むことも考えられる。開花の早い園では、寒害の影響を受けることが予想されるので注意する。

アブラムシの発生は平年よりやや多く、カミキリムシ類の被害穴は多い。本年はカメムシのエサとなるスギ、ヒノキの球果が平年より少ないため、来年のカメムシ発生量は少ないと見込まれる。詳しくは、農林総合研究センター病虫害防除課の発生予察情報を参考にする (<http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/index.html>)。

表2 着花房率(暖地園芸研究所)

品 種	本年 (%)	平年 (%)	前年 (%)
楠	91.8	80.6	98.0
大 房	87.4	76.6	92.4
田 中	79.2	76.1	90.4

平年：1984年～2013年の30年間の平均

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>